

# 近代英語協会ニューズレター

2009 年 (平成 21 年) 12 月 10 日

近代英語協会事務局

〒732-0063 広島市東区牛田東 4-13-1

広島女学院大学大学院言語文化研究科

英米言語文化専攻米倉研究室内

協会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/mea/index.html>

(電話: 082-228-0386(大代表) 振替口座 00810-9-5821)

## 1 近代英語協会第 27 回大会について

第 27 回大会は、2010 年 5 月 28 日 (金) に、京都大学文学部 (京都市左京区吉田本町) において開催されます。

シンポジウムは、「there 構文の史的発達」というテーマの下、聖徳大学教授 藤原保明先生に司会をしていただきます。講師は、藤原保明 (聖徳大学)、家口美智子 (摂南大学)、西原俊明 (長崎大学) の方々です。

開催校の家入葉子先生には、大変お世話さまになります。

個人研究発表の締め切りは 2010 年 1 月 31 日 (土) となっております。発表をご希望の方は、300 字程度の要旨に氏名・所属・職位・略歴・連絡先 (住所、電話番号、e-mail アドレス) を添えて、下記宛てにお申し込み下さい。

電子ファイル (MSWord の添付ファイルにて)

[nakamura@for.aichi-pu.ac.jp](mailto:nakamura@for.aichi-pu.ac.jp)

打ち出し原稿 (特殊文字なくば不要)

〒480-1198

愛知県愛知郡長久手町大字熊張

字茨ヶ廻間 1522 - 3

愛知県立大学外国語学部

中村不二夫

## 2 役員の交替について

2010 年 3 月末日をもって、編集委員の岡崎正男、鈴木敬了、福元広二、前田満の四氏が任期満了となります。4 年間の長きにわたり、協会の運営にご尽力いただきありがとうございました。

これを受けて、編集委員会では、新たに石崎保明 (名古屋産業大学)、太田聡 (山口大学)、尾崎久男 (大阪大学)、脇本恭子 (岡山大学) の四氏が新委員に選出されました。また、新編集委員長として中川 憲氏 (安田女子大学) が選出されました。どうぞよろしくお願いいたします。

## 3 『近代英語研究』第 26 号の発行について

4 編の論文、1 編の研究ノート、3 編の書評のご投稿がありました。ご応募いただきありがとうございました。編集委員会の厳正なる審査結果は次のとおりです。5 月の発行を目指して、現在編集作業が進められております。

	論文	研究ノート	書評
掲載可		1	3
再審査	2		
掲載不可	2		

第 27 号(2011 年 5 月発行)の投稿締め切りは 2010 年 9 月 15 日 (水) となっておりますので、次回もふるってご応募ください。審査は匿名で行われます。応募要領は、協会ホームページ左下「出版物」の中の「投稿要領」をご覧ください。応募原稿、同電子ファイルの送付先は次のとおりです。

電子ファイル

[hideshi.ohno@gmail.com](mailto:hideshi.ohno@gmail.com)

打ち出し原稿

〒712-8505

倉敷市連島町西之浦 2640 番地

#### 4 近代英語協会最優秀新人賞ならびに 優秀学術奨励賞について

(1) 2009年5月の編集委員会において、次の論考が優秀学術奨励賞に選ばれました。また、その旨の報告を受け、理事会でも承認されました。授賞式は、2010年5月28日(金)の第27回大会総会において取り行われます。

氏名

柴崎礼士郎 (沖縄国際大学)

受賞対象論文

“Another Look at the Development of Epistemic Meanings in English: A Historical Collocational Approach”  
(『近代英語研究』第25号, pp. 63-84)

授賞理由

本論文は法助動詞と副詞とのコロケーションの観点から法助動詞の認識的意味の発達を考察した研究である。特に **may well** に焦点を当て、副詞は法助動詞の認識的意味の発達に関わり、またその発達の指標となりうることを主張している。

研究手法として入念なコーパス調査がなされており、**may well** が認識的意味を発達させてきたプロセスに光を当てているという点で評価できる。一般に否定文では法助動詞の古来の意味が残りやすいという性質を述べているなど興味深い観察が見られる。また長期間 **may** が **well** とコロケーションを形成してきたことは両者が意味的に調和する証拠であるとする指摘、**may well** が古くから認識的な意味を表していた可能性が高いこと、**may well** が否定されると認識的な解釈がなくなるなど、**well** の意味と **may** の認識的な解釈の出現の間に関連があることを述べている。結論として、ある特定の副詞とのコロケーションの頻度が法助動詞の意味の変化について知る強い手がかりとなるという氏の主張は説得力があると思われる。

以上の点から当編集委員会は柴崎礼士郎氏の掲載論文に関して今後の研究の発展が期待できるものと判断し優秀学術奨励賞を授与する。

(編集委員会)

(2) 旧「新人賞」「佳作」は、それぞれ「最優秀新人賞」「優秀学術奨励賞」に名称が改められています。若手による当該年度の掲載論文の中から、前者は特に秀でている論文に、後者は、最優秀新人賞には至らないが将来性を感じさせ優れていると評価された論文に与える方式に変わっています。論文応募の際、「執筆者情報ファイル」の該当欄に (√) をご記入いただくだけで結構です。

#### 5 論文投稿・研究発表応募に関するお願い

編集委員会から、英文チェックを受けていると思えない原稿がここ数年増えてきているので周知徹底してほしい旨の依頼がありました。『近代英語研究』投稿規定に明記されておりますように、英語論文については、英語を母語としない投稿者は投稿前に必ずネイティブ・スピーカーによる原稿のチェックを受けた上でご応募ください。学会誌への二重投稿、研究発表への二重応募はお止めください。

#### 6 会費納入のお願い

協会の円滑な運営のため、会費納入をお忘れにならないようお願いいたします。2002年に、「過去3年間会費未納の会員を自然退会とみなす」ことが決まっていますので、ご注意ください。不安な方は [nakamura@for.aichi-pu.ac.jp](mailto:nakamura@for.aichi-pu.ac.jp) へお問い合わせください。振替口座番号は、第1面上部の協会事務局情報の最後に示してあります。

以上

良い年をお迎えくださいますように...